



# ナマズの知恵袋

平成23年(2011年)3月1日  
編集・発行 滋賀県立図書館

## 《滋賀県の人物を調べるには》

参考資料室でもっとも多い調べ物は、人物についての調査です。特に、滋賀県ゆかりの人物は、この部屋の資料を使って調査を進めます。基本的な事典から地域の資料へと情報のすそ野がひろがります。

### 《Q. ヤンマーディーゼル創業者「山岡孫吉」を調べると》

#### ■『人物レファレンス事典』古代～平成編 日外アソシエーツ編刊 [R-2810-2] (15冊)

1983年の創刊から改訂を重ね、古代～平成初までの人物22万人について、どの事典に掲載されているかということを示してくれる二次索引です。この1冊を引くと72冊の人名事典を引いたことになります。明治大正昭和(戦前)編によると山岡孫吉は、『現代日本朝日人物事典』のほか合計5つの事典に掲載されていることがわかります。



#### ■『「現代日本」朝日人物事典』朝日新聞社編刊 1990年 [R-2810-7]

山岡孫吉 1888～1962年 発明家、経営者。滋賀県生まれ。明治45年(1912)に吸入瓦斯発動機販売業を始める。大正期に農業用の石油エンジンを発明し、「トンボ印」と名づけようとしていますが、すでにその商標は登録されており、トンボの王様のヤンマから「ヤンマー」と命名しました。

#### ■『滋賀県百科事典』同事典刊行会編 大和書房 1984年 [S-0300-84] (肖像写真あり)

伊香郡古保利村(現高月)に生まれ、尋常高等科を卒業すると海外移住を志願しましたが、母のすすめで明治36年(1903)に大阪に出ました。

#### ■『近江人要覧』近江人協会編刊 第2版 1934年 [S-2800-34] (肖像写真あり)

昭和6年当時に活躍した1,500人余りの人物を収録している本書では、小型石油発動機の販売台数が昭和初頭までに3万5千台を突破したことがわかります。

#### ■『燃料報国—ヤンマー70年のあゆみ』ヤンマー70年史編集委員会編纂 ヤンマーディーゼル株式会社 1983年 [5-5306-83]

ヤンマー創業当時の息吹が伝わってきます。

#### ■『ヤンマー記念写真帖』山岡発動機工作所 [編]刊 出版年不明 [5-5371- ]

### 《Q. 浅井長政の次女初姫の嫁ぎ先である京極高次を調べると》

#### ■『国史大辞典』国史大辞典編集委員会編 吉川弘文館 1979～1997年 [R-2100-1～15]

京極高次 1563-1609年 安土桃山時代の武将。天正元年(1573)浅井氏の滅亡後織田信長から五千石を与えられ明智光秀の従者となります。また後には近江八幡山城、大津城の城主となります。

#### ■『近江人物志』滋賀県教育会編輯 文泉堂 1917年 [S-2800-17] 復刻版 1986年

高次の実妹「松丸殿」は、夫を秀吉に殺された後秀吉の側室となります。高次の正室は、浅井長政の次女「初」で常高夫人といわれます。本書は鎌倉時代から明治末までの1,200余名を収録。



#### ■『寛政重修諸家譜』続群書類従完成会編刊 1964～92年 [R-2882-1～22+別巻, 家紋, 総索引]

江戸幕府が諸大名・旗本等に命じて家譜・系図を提出させ、約14年(1799-1812)を経て完成させたのが本書です。全体では、1,530巻あります。京極高次は、「宇多源氏 佐々木支流」として巻第419に載っています。

#### ■『新修大津市史』第3巻 近世前期 林屋辰三郎[ほか]編 大津市役所 1980年 [S-2111-3]

京極高次が大津城主であったことから、同書にも記述があります。

### 《滋賀県立図書館のホームページで調べると》

滋賀県立図書館レファレンス事例検索

★当館で調査をした事例を集め、キーワードから回答事例を閲覧できるようにしています。人物は400名余りを紹介しています。

## 湖国なんでも百科

★「湖国なんでも百科」は、今年の大河ドラマの主人公「江姫」を始めとした「浅井三姉妹」のことや「近江商人」など、滋賀県に関わる人物をインターネット上で閲覧できる便利なページです。



## 地域の百科事典!! 市町村史誌を活用する

- ❖ 県内で刊行されている市町村史誌の多くは、刊行年が古い場合は「人物誌」「寺社誌」を備え、また、近年刊行のものは索引を備えています。
- ❖ つまり、人物・社寺名等からの調査が容易なつくりとなっています。事例から、調査事項が、市町村史誌にどの場所にどのような項で掲載されているかご確認ください。

**Q. 豊臣秀吉政権下において土木関係を担ったといわれる、近江出身の僧、応其(おうご)の墓が、滋賀県の飯道山(はんどうざん)にあるらしい。郷土の資料から「応其」「飯道山」に関する資料があれば教えて欲しい。**

**調査① 事典類を確認 : まず事典からどの地域に関わりのある項目か確認します。**

- 『滋賀県百科事典』 滋賀県百科事典刊行会編 大和書房 1984年 [S-0300-84]
  - 「飯道山」の項あり。「応其」の項はなし。
- 『近江の山』 木村至宏編 京都書院 1988年 [S-2900-88]
  - 「飯道山 湖国修験道の霊山」の項あり。
- 『滋賀県の地名(日本歴史地名大系 25)』平凡社地方資料センター編 平凡社 1991年 [S-2900-91]
  - 「飯道山」「飯道寺」「飯道神社」の項あり。

「飯道山」が、修験道に関係の深いことがわかります。

「応其」についても記載されています。



**調査② 市町村史誌を確認 : その上で、該当市町村(この場合は甲賀市)を確認します。**

「木食応其」「木食上人」「僧応其」など、1人の人物に対し、さまざまな項立てがされています。※①

「甲賀市史」では、索引からひくことで、「江州飯道山行者講」が現在も行われていること等、想定以上の情報を得ることができました。※②

(参考) 旧甲賀郡内のその他町史誌

- 「土山町史」土山町役場 1961年
- 「石部町史」石部町 1959年
- 「新修石部町史(通史編)(資料編)」石部町役場 1989-1990年
- 「甲賀町史」甲賀町 1973年
- 「甲賀町史(通史編)(資料編)」甲賀町 1994年
- 「甲西町誌」甲西町教育委員会 1974年
- 「甲南町史」甲南町 1966年

- 『水口町志 下巻』 水口町志編纂委員会編・刊 1959年 [S-2133-2]
  - 下巻は、外篇(水口今昔)・社寺篇・人物篇・史料篇から構成、外篇に「修験道と飯道山」、社寺篇に「飯道山(三大寺)」、人物篇に「木食応其」の項あり。
- 『甲賀郡志 下巻』 甲賀郡教育會編・刊 1926年 [5-2130-2]
  - 下巻の第11編(神社)に「飯道神社」(旧甲西町及び旧信楽町の同名2社)、第12編(神社及教会)に「飯道寺」、第18編(名所旧跡)に「木食上人墓」、第20編(人物)に「僧応其」の項あり。
- 『甲賀市史 6(民俗・建築・石造文化財編)』 甲賀市史編さん委員会 甲賀市 2009年 [S-2133-6]
  - 索引に「飯道権現」「飯道山」「飯道寺」「飯道神社」「木食上人応其五輪」の項あり。
- 『信楽町史』 信楽町史編纂委員会・滋賀県立甲賀高等学校社会部編 信楽町 1957年 [5-2137-57]
  - 第4章7に、「飯道山の興隆」の章あり。

※① 木食(もくじき)は、木食戒(木の実や果実の実を食べ、米や野菜を常用しない修行)を守る僧の総称。

(引用:「日本史用語辞典 新装版」 柏書房 1990年)

※② 行者講は山岳信仰を背景とした講で、山中の行場で特別に修行を積んだ行者の徳に根ざした信仰を紐帯として結集をなす講である。

(引用:「甲賀市史 6」)